

【94】牛道橋

筆者の若い頃、当時の建設省河川局で、北海道の河川改修事業の検討をしていたとき、田園地帯を流れオホーツク海に流入する、とある河川の河底を掘り下げ洪水の流下能力を増やす計画がありました。新しく堤防は造らないので用地買収の必要性は無いのですが、現地の北海道開発局の計画では、近くに道も無いのにわざわざ橋を架ける計画になっています。しかも歩道橋だというのです。

その必要性を理解できず、さらに詳しい説明を求めると、河川の両側にまたがって大きな牧場があり、河川が浅い時代には西部劇で牛の大群が川を渡るように歩いて渡れるが、河底が深くなり河岸が急斜面になると牛が登り降りできなくなり、その機能補償として橋を架けざるを得ないとのことでした。それじゃあ、この橋は牛が歩いて渡るから歩道橋でも“牛道橋”じゃないかと思まいには笑い話になって納得しました。

昭和56年（1981）のこと、新しく札幌地域から道東の帯広、釧路方面へ出る高速鉄道としてJR石勝線が建設されました。鉄道雑誌に出ていた工事記事を読んでいたら、石勝線は畑地、牧場の中で地平を走る区間がありますが、踏切を設けないので道路の無い処にも牛の渡る跨線橋を設けたとのことでした。

“牛道橋”は河川ばかりではなく鉄道にもあったのです。流石は牧畜の盛んな北海道ならではの話です。